

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2010.12. Desember Vol.15-1

県民との協働による 地域づくりをめざして

11月22日から11月定例県議会が開られ、いつものように今回も質問に立ちました。

県内では様々な形で県民が中心となって、私たちがこの島根で生活し続けていくうえで必要なことを、地域で自ら考え自ら活動を起こしている人たちがたくさんいます。こうした人たちと行政が協働して公共サービスを実施することもこれからは必要です。この視点か

ら今回は質問に立ちましたので報告します。

協働による公共サービス

県も県民の活動への支援や、協働事業への取り組みもなされていきますが、さらに進めていくことがこれからは必要です。

問い 県が率先して県民に働きかけ、県民との協働で県の公共サービス事業を実施していくことに対してどのように考えるのか。

知事 民との協働の進め方については、今後も島根の実情にあった民との協働を進めるための手法、事業などを検討していきたい。

問い 松江市では、市民団体から開催要望のあった日本女性会議を、市と市民が協働で来年10月に開催するために、今、



本会議場で一般質問を行う

(裏)

高齢者介護のあり方

10月25～26日に、文教厚生委員会が高齢者介護の現状と課題を調査し、今後の高齢者介護のあり方を検討するため、県内視察を行いました。



梅里苑の内部

最初に出かけたのは雲南市三刀屋町の特別養護老人ホーム梅里苑(ばいりえん)です。ここはユニット型個室で高齢者を介護しており、ユニット型にして5年を経過したところですが、利用者にとっては、個室ということでは居場所ができ、落ち着かれ、精神的にも安定し徘徊が少なくなったということでした。家族の方も訪問しやすく、個人が尊厳され、介護度も

下がってくることもあるということでした。その分、職員にとっては負担が大きくなった部分もあり、それをどう軽減していくかについて、事務の簡素化や研修、職員の増員などに取り組んでいます。職員の努力なしでは、利用者の施設での生活の質をあげていくことはできません。



私たちがいただいた梅里苑の昼食

次に訪問したのは大田市の小規模多機能型居宅事務所七色館・雪見の里です。ここを運営する(有)百年くらぶは、森林の環境保全の活動から始まった会社で、今でも様々なNPO活動を行っています。

活動する人たちの生活上の悩みなどを解決しようと、高齢

(裏・下段囲み)

準備が進められているが、これへの支援についての考えを聞く。

知事 県としても、大会運営に必要な支援を行うほか、財団法人しまね女性センターとも連携し、県内各市町村や関係機関・団体への参加の呼びかけ、県民へのPRなど、松江大会が有意義なものになるよう積極的に協力していきたい。

知事 県としては生活保護世帯算の平準化とコスト縮減を図る。また、道路の安全・安心の確保を最優先に考え、適切な維持管理に努める。

●TPP参加に関する意見書

「関係国との協議を開始する」とした「包括的経済連携に関する基本方針」を閣議決定し

知事 筋委縮性側索硬化症(ALS)患者の皆さんの療養生活環境をよくするための支援の取組みをさらに強化する考えはないのか。

知事 解決しなければならぬ課題もあり、今後も患者・家族の意見をよく聞き、ALS患者の療養環境改善に向けて検討を続けていきたい。

●療養環境の改善に向けて

関する基本方針」を閣議決定したTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）参加に関する意見書が、自民・公明・共産系議員によるものと、我々民主県民クラブによるものとの2つが議会に提出されました。自民議連等の意見書はTPP参加に反対するもので、私たちは、参加しなければ議論にならないため、協定まで進むのかを議論しつつ、農業政策等に配慮した慎重な取り組みを求める意見書として提出しました。



●道路等の維持管理

知事 今後の道路の整備にける予算と維持管理に要する予算の配分はどうあるべきと考えるのか。

土木部長 適切な維持管理水準を確保するため、ボランティアによる道路愛護活動の拡大や長寿命化修繕計画の導入など様々な工夫をしながら、維持補修

予なればなりません。

参加して議論のテーブルに着かなければ、世界が自由貿易の道を進んでいる中で、日本は取り残されてしまいます。そのうえで、今後どのような国内政策を整備していくのか考えてい

なればなりません。

者介護や学童保育、子どもの居場所作りなどを行っており、地域の住民参加を促しながら活動に取り組んでいます。家族や住民の支援なくしては、高齢者介護はできないと、その仕掛けに工夫を凝らしています。



七色館・雪見の里

大田市役所でのケアマネジャーの皆さんとの意見交換では、インフォーマルなサービスなくしては高齢者を支えきれないが、そのサービスをどうやって地域に起こしていくか、いろいろと働きかけてはいるが、なかなか難しい課題だと話されていました。いずれにしても介護現場で働く人たちは本当に一生懸命ですが、それに比べて報酬が少ないのが大きな課題です。熱意ばかりに頼ってい

るわけにはいきません。石東病院では療養型病床についての調査を行いました。医療費がかさむ中、長期入院が問題となり、療養型病床の転換が決められました。全国的にかなかなか進まない状況があります。ここでも、医療的な処置が必要な方が多いなか、簡単には介護型病床、老人保健施設への転換とはいきません。また、どこまで医療的な処置をするのかという課題もあります。本人、家族も含めて、高齢者に対する医療的処置に対する考え方、終末をどう迎えるかをみんなでしっかりと議論していかなくてはいいけません。

次に松江市の厚生センターで特別養護老人ホームの多床室についての調査を行いました。施設が古くなってきているため、動線が長くなり、高齢者にとっても介護者にとっても負担が大きくなっています。ユニット型の個室と比べると、整備費が多かかりますが、利用者の負担も大きくなりますが、ユニット型がベターです。